





掲載各社WEB SITE リンク集収録



- ◆このCD-ROMに収録されている内容は、作品提供各社の著作物で著作権法により法律で守られています。
- ◆このCD-ROMに収録されている内容の無断複製、頒布、改竄、販売などいかなる行為も禁止致します。
- ◆免責事項 弊社ではCD-ROM閲覧中のトラブルに関し、如何なる理由を問わず一切責任を負いません。

このCD-ROMはアップルコンピュータ社のMacintoshパソコン及びMicrosoft社のWindows XP/Me/NT、 98、Windows Vista を登録したパソコンのCD-ROMでご利用になれます。

WEBプロ年鑑 '08

ANNUAL OF WEB PRODUCTIONS '08

発 行 日: 2007年 TO 月25日 初版第1 刷発行

行:株式会社アルファ企画 東京都新宿区三栄町24 黒田ビル2F 〒160-0008 Tel. 03-5360-6531 Fax. 03-5360-6544

http://www.e-webpro.jp info@e-webpro.jp 売:株式会社ワークスコーポレーション 東京都渋谷区道玄坂1-10-8渋谷野村ピル7F 〒150-0043 Tel. 03-5459-8266 Fax. 03-5459-8275

http://www.wgn.co.jp

刷:株式会社不二企画

© 2007 Alpha planning,Inc. printed in JAPAN

ISBN978-4-86267-019-9 C3070 ¥9333E

定価はカバーに表示してあります。落丁・乱丁はお取り替えいたします。 本書および付録CD-ROMによって発生したいかなる事故・損害も当社は 一切責任を負いません。本書の内容の無断転載を禁じます。

ア	206	アークウェブ	9	254	タスクラボ&ステージ
-	278	アースフィア		122	タム
	62.64	アイ・エム・ジェイ		120	タンデムワープ社
	272	アイアクト	111	140	月と六ペンス
	248 218	アイテック阪神 アクアリング	,	140	ACA OA
	106	アジャスト	7	40.42	ディー・ディー・エフ
	220	アズーロ		130	ディーオーイー
	158	アット		256	デイズヌーヴェル
	24.26	あとらす二十一		28 · 30 · 32	ティファナ・ドットコム ティラノ
	236 182	アナログエンジン アビリティーカンパニー		190	デジクロ
	132	アブー		112	デフィデ
	110	アベンティ		258	デライト
				270	デルタエージェント
1	98	イー・バード		440	東京ドアーズ
	162	イー・フュージョン イーシービービー	L	148	来京トゲース
	102	イクリプス	2	234	ネットプロ
	240	イサック		52 54 56	ネットワールド
	160	イメージサイエンス			2.2
	96	インターキャスト	,	168)1
	244	インフォメーションメディアデザイン インフォネット	100	126	バーチャルコミュニケーションズ
	48.50	インプレッション		128	バリュークリエイト
	40 50	1272722			
ゥ	228	ヴィッシュ	E	108	ビー・ネイキッド
	180	ウェブ・ワークス		166	ピーエスシー ビーンズ・クリエイティヴ・ディレクションズ
	186	ウェブマックス ウサくま		156 260	ビット
	34 · 36 · 38	9928		200	Lyr
I	178	エヌシーエステクノロジー	フ	204	ファイアープラネット
	214	エフアイシーシー		230	フィールド
	176	エフワンインタラクティブコンテンツ		246	ブース
	74.76	エレファント・コミュニケーションズ エンタクルグラフィックス		262 264	フェイバー フォーデジット
	216	エンタンルシンフィックス		208	フォト・ウェーブ
オ	154	オーク		78.80	フライング・ハイ・ワークス
	250	オーパス		124	プラスデザインカンパニー
				118	ブラン
73	150 152	垣内敬造事務所 カラーズ		100	フリーランス ブリッジコーポレーション
	276	カラーパワーズデザイン		210	フルサイズイメージ
				238	プロキシー
+	170	キティホーク		202	プロフェッサ
				202 86·88	プロフェッサ フロムナインクリエイツ
	184	クーシー		86.88	フロムナインクリエイツ
			^		
9	184	クーシー		86.88	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー
9	184 90·92	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ		86·88 224	フロムナインクリエイツ
9	184 90·92 252	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル	₹	86·88 224 82·84 116	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ
2	184 90·92 252 138 66·68	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ	₹	86·88 224 82·84	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー
2	184 90·92 252 138 66·68	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン	₹	86·88 224 82·84 116	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ
2	184 90·92 252 138 66·68	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ	₹	86·88 224 82·84 116 266	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ
2 3	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト	₹ Ξ ,×	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス
2 3	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ	₹	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ
2 3	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット	マ ミ メ モ	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ
2 3	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ	₹ Ξ ,×	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント	マ ミ メ モ	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース	₹ \$ \$ ±	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス	₹ \$ \$ £	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146 188	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス スナップ	₹ \$ \$ ±	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス	₹ \$ \$ ±	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172 174	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー
2 9	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146 188 58·60	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス スナップ スパイスワークス	マミメモュリル	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172 174	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー ループ
クコサシス	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146 188 58·60 164 104	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス スナップ スパイスワークス スパイス・グラフィックス スフィーダ	マミメモュリル	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172 174 94	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー ルーブ
クコサシス	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146 188 58·60 164	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ オー・スペース スタジオ ホット スパイス スナップ スパイスワークス スパイス・グラフィックス	マミメモュリルレロ	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172 174 94	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー ルーブ レインボー・ジャバン ロックオン
クコサシス	184 90·92 252 138 66·68 268 70·72 134 44·46 212 194 16·18 136 146 188 58·60 164 104	クーシー クォードムーン コア・アド・インターナショナル コラボ コンテンツ サイバーシーズジャパン サンスイ サンライト シー・ディー・アイ ジゴワット ジャパンデザインネット スタイルメント スタジオ イー・スペース スタジオ ホット スパイス スナップ スパイスワークス スパイス・グラフィックス スフィーダ	マミメモュリルレ	86·88 224 82·84 116 266 20·22 144 274 192 196 172 174 94	フロムナインクリエイツ ヘルツ マザー マック グラフィックアーツ ミームクリエイティブ メタフェイズ メディアフェイス モン・クリエイティブ ユナイティア リアルインデックス ルート・シー ループ

A	182 132	ABILITY COMPANY ABUU	K	150 170	Keizo Kakiuchi Office KITTY HAWK
	106	ADjust			
				198	LOCKON
	236	analogengine	L		
	218	aquaring		174	LOOP
	206	ARK-Web	1		
	158	AT	м	116	Mac. H GraphicArts
	24 26	Atlas 21		144	Media Face
	110	AVENTI		20-22	metaphase
				266	MiiM Creative
	220	Azzurro			
				274	MON CREATIVE
B	108	Be Naked & Co.		140	MOON & SIXPENCE
	156	BEANS Creative Directions		82.84	Mother
	260	bit			
	118	blanc	N	52.54.56	NET WORLD
				234	NETPRO
	246	Booth			
	232	Bridge Corporation		168	NEU
				178	N-TEC
C	44.46	CDi			
	138	colab	0	154	OAK
	276	ColorPowersDesign		250	OPUS
		The second secon		200	0, 00
	152	COLORS			
	66.68	CONTENTS	P	208	photo*WAVE
	184	COOSY		124	PLUS DESIGN COMPANY
	252	CORE AD INTERNATIONAL		202	Professional Service
	268	CYBER SEAS JAPAN		238	PROXY
	200	O I BELLI GELLO GIA TALL		166	PSC
		DAZENIOUN/EI		100	1 00
D	256	DAZENOUVEL			CUADAGON
	40.42	DDF	Q	90.92	QUADMOON
	112	defide			
	258	DELIGHT	R	94	Rainbow Japan
	270	DELTA AGENT		196	REALINDEX
	200	digichro		172	Root-Sea
				.,.	11001 000
	130	DOE		70 70	
		State Control of the	s	70.72	sansui
E	278	EAR-THPHERE		142	SERAKU
	98	e-bird		104	SFIDA
	162	ECBB		188	SNAP
	102	eclipse		114	sonicjam
	222	eFUSION		164	SPICED GRAPHIX
				58-60	spiceworks
	74.76	Elephant Communications			
	216	ENTACL GRAPHICXXX		136	STUDIO E-SPACE
				146	STUDIO HOT SPICE
F	176	F1 Interactive Contents		16.18	STYLEMENT
-	262	favor		134	SUNLIGHT
	214	FICC			
			1-	122	TAM
	230	FIELD	т		
	204	FIRE PLANET		120	TANDEM WARP
	78 80	FLYING HIGH WORKS		254	TASKLAB & STAGE
	264	four digit		28 · 30 · 32	Tifana. com
	100	FREELANCE		148	TOKYO DOORS
	86.88	Fromnine CREATS		190	TYRANNO
	210	full size image			
	210	full Size ifflage	U	192	UNITEAIR
			U		
H	224	Hertz		34 36 38	usakuma
- 1	272	iact	V	128	VALUE CREATE
	48.50	IM:PRES:SION		126	Virtual Communications
	160	IMAGE SCIENCE		228	VISH
	4. 4. 4.				
	62.64	IMJ		040	WAKO
	226	infoNet	w	246	WAKO
	244	Information Media Design		186	WEBMAX
	96	INTERCAST		180	WEB WORKS
	240	ISACK			
	248	ITEC HANSHIN	k		
	240	TIEOTANOTHIN	V		
	101	Investoral management			
J	194	JapanDesignNet			
	212	jigowatt			



Introduction

Set against the continuing advancement of global warming, the danger of losing Japan's uniqually defined four seasons and beautiful greeney to becoming an ever-increasing reality. This new age is also reflected in the corporate sphere, where companies now have to face the reality of having the corporate standards and social responsibility being examined in even greater detail. This means not only focusing on producing profit, but also having to greater the details of this new age is requirement for social esponsibility.

The media sector leads the way in dealing with ecological or longuis-driven itestyles, and Europe is currently at the forefront of developing businesses that are routed in a belief in environmental conservation. The online business sector is also keeping pace with a diversification in communication styles, and it can be said that we have arrived in an age that requires the development of a new communication style.

Maintaining a favorable partnership with manufacturers requires? even for the web-based sector that is striving to towards its aim of becoming the third stage of media? a diverse view of the world that is capable of carrying out effective analysis. In terms of the confines of this book, this means publications that have been developed under the combined aegis of both manufacturers and companies active in the web-based business. The 2008 edition of the yearbook was published with the cooperation of 111 companies active in web-related activities. The core point of this publication is to focus on progress in the matching of manufacturers and companies actively engaged in the online industry. We hope that contact persons at each of the relevant manufacturers find this interesting and take the time to look over the profiles of the 111 companies profiled in this book, and make contact with any parties they may be interested in.

October 2007 Editorial Section, WebPro Yearbook

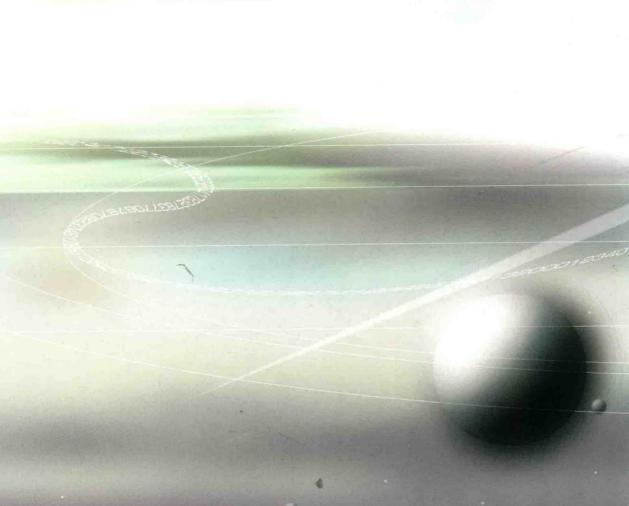
はじめに

昨今地球温暖化が進む中、世界の緑はもとより美しい日本の四季が失われる可能性が高まっています。それに伴い企業の社会的価値基準にも倫理性が問われる時代となりました。利潤の追求だけではなく、社会的責任も大きく問われる時代です。

エコやロハスな生活がメディアで盛んにとりあげられ、ヨーロッパでは環境保全に即した起業が次々と生れています。WEB業界もコミュニケーションスタイルの 多彩化に伴い、より新しいコミュニケーションの開拓が必要な時代に来ています。

メーカーとの良好なパートナーシップを維持するためには、今やメディアの第三ステージを目指す勢いにあるWEB業界においても、多様な視点で世の中を分析できる力を持つことは重要です。それは本書においても言えることで、メーカーとWEB業界の協力の下に成り立っている書籍です。08年版はWEB企業111社のご協力を得て無事刊行できました。本書の基本趣旨は、メーカーとWEB業界のマッチングの推進にあります。各メーカーご担当者に於かれましては、本書に掲載された111社のプロフィールにお目通しいただき、コンタクトをお取りいただければ幸いです。

2007.10. WEBプロ年鑑編集部



ANNUAL OF WEB PRODUCTIONS '08

-069717234B23

WEBビジネスの未来に向けて今、為すべきこととは?

~目に見えない戦略が企業の生き残りにつながる時代~

インターネットは私たちの生活だけではなく、ワークスタイルまでをも変化させた。 それは個人のレベルを超え、企業としても生き残りをかけた戦略の必要性を余儀なくされている。 かつてないスピードで移り変わっていくこの時代に、企業はWEBを通してどのように臨んでいくべきなのだろうか。 船井総合研究所の取締役で看板トップコンサルタントでもある五十棲剛史氏と、 今年で創業10年を迎えたデザイン会社のスタイルメント代表取締役野村太郎氏に話を伺った。



インターネットにより 変化していくワークスタイル

野村 インターネットの出現により私たちの生活はここ10年くらいで大きく変わりました。 WEB自体が商品になり、時代の波とうまくり ーチしていくことでとても有意義なツールにもなる。たとえば介護のシステムなど、アナログ的なことがうまく独自に変換されていくことで、ますます便利で豊かな社会になっていますね。 五十樓 僕が今、一番感じているのは色々な部分で境界線が無くなってきた、ということ です。例えばインターネットというものが無い時代は、仕事が終わったら完全に仕事のことが忘れられたんですよ。当時は携帯も無かったですしね。ところが現在はメールに支配されているような毎日で、仕事とプライベートとの境界線が無くなってきている。

The Future of the Web Industry, What Needs to be Done?

The success of any company in today's business environment requires the presence of unseen strategies

The advent of the internet has not only had a significant impact on our lifestyles, but has also changed our working style and corporate culture. Such transformation has gone beyond individual changes and has forcedcompanies to realize the importance of applying a strategy for their continuing survival. In this current climate of change at unprecedented speed, companies have to ask themselves in what way they should use this new online medium in their approach to doing business. Here, we took the opportunity to talk to Takeshi Isozumi, director and leading advertising consultant at Funai Consulting, and Taro Nomura, representative director of the design and planning company Stylement Inc., on the occasion of the company's 10th anniversary of their foundation.

A Working style that Corresponds to Changes Brought about by the Internet

Nomura: The development of the internet has meant that everyone's lifestyles have been affected to some extent over the past 10 years. The web itself can now be viewed as a product, and is an extremely productive tool in terms of its reach as it changes with the latest trends. One example I could give of this can be seen the field of nursing care, where the change from a conventional system to a more independent system using the web has contributed to an increasingly convenient and affluent society.

Isozumi: Personally, what I consider to be most significant regarding these changes is their effect on making borders indistinguishable in a variety of different sectors. One example of this can be seen in looking back to when the internet had yet to gain mainstream acceptance. Finishing work really meant finishing work, allowing you to completely switch off and forget about whatever you had left behind at the office. This separation of work and private lifestyle was further deepened by the fact there were no cell phones back then either. Today's business environment, however, is one in which we are appear to be

controlledby our e-mail habits, and the defining line that separates our professional lives from our private lives is rapidly disappearing.

Nomura: This idea of disappearing boundaries, however, can also be seen in the development of websites, in which conventional website construction has tended to focus solely on design aspects. Now, however, developing a website requires a comprehensive approach that involves crucial areas such as programming and security, in addition to more traditional design issues.

Isozumi: This has also seen a rise to a number of inexplicable incidents, hasn't it? In terms of an organizational framework within companies, information that was once only held by directors is now common knowledge among staff; in terms of the political world the arrival of the internet now allows anyone access to information that was previously the reserve of politicians. I would say that these developments mean that we have to regard the development of the internet as a double edged sword that will always have both a positive and negative side to any issue.

Nomura: But I think that there are still many companies who have yet toembrace these changes and are only now being forced to accept

4

野村 境界線がなくなってきたという意味では、 今までならWEBサイトをつくるときはデザイン だけ頑張ればよかったけれども、今ではプロ グラムやセキュリティ面など、トータルにWEB

を捉えていかなくてはならなくなりましたね。

五十樓 今まではなかったような不可解な事件も少なくないですね。組織でいえば役員しか持っていなかった情報を社員が持ちだしたり、政治の世界で言えば今までは政治家しか知らなかったような情報がインターネットを介して時には一般の人も知ることができるようになった。だからインターネットというのは、常にプラス面とマイナス面を表裏一体で考えていかなくてはならない。

野村 変わらざるを得ない状況に追い込まれている昔ながらの企業も少なくないですよね。 五十棲 そうですね。例えば小売業の場合だったら、今までは地域に密着して自分の商圏だけでナンバーワンになればそれなりのビジネスをやっていけた。しかし現在ではその地域でトップを取っていたとしても、インターネ



五十棲 剛史 (いそずみたけし) (株) 船井総合研究所 取締役 執行役員

Takeshi Isozumi

Director, Operating Officer Funal Consulting Co., Ltd.

船井総合研究所を代表する看板トップコンサルタント。主に住宅・不動産ビジネスのほか、最近では広告企画会社、人材関連ビジネス、ITビジネスなどベンチャー系企業、LOHAS関連ビジネス、富裕層ビジネスなどの事業プロデュースを手がけている。これまで手がけたクライアント数は250社を超える。著書も多数。

■五十棲公式HP「ISOZUMI.COM」 イソズミドットコムhttp://www.isozumi.com/

Isozumi is one of Japan's leading advertising consultants and works for Funal Consulting. Mainly focusing on the personal home and real-estate business. he has recently become involved in a range of different industries, from venture companies such as advertising planning companies, human resources, and IT-related companies to business production operations involving LOHAS-related businesses and businesses focused on high earners. To date he has assisted over 250 companies, offering advice and expertise in addition to having a number of his own books published.

■ Takeshi Isozumi's personal website: http://www.isozumi.com/



野村 太郎 (のむらたろう)

- (株) スタイルメント 代表取締役
- (株)野村デザイン研究所 代表取締役
- (株) クロコソフト 取締役

Taro Nomura

Stylement Inc., Representative Director Representative Director, Nomura Design Co., Ltd. Director, Kurokoseft Inc. シャープ株式会社に入社。AV関連のプロダクトデザインを手掛け、1997年ウェブ、グラフィックなどを手掛けるデザイン会社 (株)スタイルメントを設立。11年目を迎えた今年は、新事業としてデザインコンサルティング業務を展開。桑沢デザイン研究所の非常勤講師、デジタルハリウッド大学の客員教授も務める。

- ■(株) スタイルメントHP http://www.stylement.co.jp/
- ■野村太郎ブログ http://nd-institute.com/

Following several years working for Sharp in product design for audiovisual related products, Nomura established the web and graphic design consulting company. Stylement Inc., in 1997. Following a successful 11 years, 2007 has seen the company establish a new design-consulting segment of their operations. Nomura also serves as a part-time instructor at the Kuwasawa Design School as well as holding a guest professorship at Tokyo's Digital Hollywood University.

- Stylement Inc's website: http://www.stylement.co.jp/
- Taro Nomura's personal blog: http://nd-institute.com/

ットというマーケットに出た瞬間に、予選がなく いきなり甲子園で決勝戦を戦うみたいな、そう いうスキルが求められる時代になってきたとい うことは言えますね。社会が高度に情報化し ていく中でより専門性が求められる。これは 当たり前のことですが、インターネットが社会 の構造自体を加速させた、といっても過言で はないでしょう。

野村 実際にまだまだインターネットをうまく活 用できていない企業も少なくないですよね。我々 は中小企業を対象とした企業ウェブサイトの 構築も手掛けています。現在、我々の仕事の

these changes.

Isozumi: You' re right. One example in particular that springs to mind is in the retail industry. In the past, companies active in this sector were content with becoming the leading business in their own local sales market and conducted sales and operations aimed towards that goal. In today's technology-driven world, however, being the leading company in your local area is no longer enough to effectively compete. Today's sales environment is one that requires companies to have the necessary skills that enable them to compete in the online marketplace? a situation that I compare to baseball players stepping into the major leagues without first having a spell in the minor leagues. With society undergoing a large-scale change to a highly-computerized society, this requires both companies and employees to have higher and higher levels of specialization. Although this may be somewhat self-evident, it's certainly no exaggeration to say that the internet has accelerated society's self-construction.

Nomura: In actual fact there are still a number of companies that have still not fully realized how to make best use of the internet in terms of their operations. In looking to assist such companies our company is currently carrying out website construction aimed at small to medium businesses. Up to 70% of our current business is geared towards webrelated work. The company works in dedicated teams, each responsible for a particular product or client, with the company placing particular emphasis on areas such as marketing or system design that make upthe basis of our operations. This is in addition to constructing a comprehensive system for developing "information design" that has ahigh sense of appealing power.

Isozumi: The current situation in Japan is one in which companies

holding domain names ending in the "co.jp" configurationalready number in the hundreds of thousands. Despite this, however, over half of such companies have yet to develop their own website. This clearly indicates that companies that use the internet as a tool for their business remain the minority in Japan. Of the companies that have developed their own website, many of these remain at the level of company overviews and corporate information, with many companies still not understanding how to make effective use of their website as a strategic tool. I would have to say that this kind of company is in the overwhelming majority here in Japan.

Nomura: Our company is currently in the process of releasing the beta version of our "Seisan Kakumei" (Production Revolution) tool that is part of the company's XML content management system (CMS). This new product is significantly different from existing CMS packages, and while continuing to carry out consulting operations, allows for the optimal construction of information assets. We have designed the product to allow release of the same information to a variety of different media?that is centered on websites?in the shortest time possible and at a low price. Although this is currently only available to clients with whom we have concluded a consulting contract, we already see this as something that we take great pride in developing as a groundbreaking new product.

Isozumi: I think that taking the time to learn more about the web enables you to understand its significance relatively easily. When it comes to constructing an actual website, however, simply building awebsite will not result in a huge influx of customers. So an old-fashioned retail company, for example, when thinking about expanding its business online, would imagine that there were relatively few hurdles

7割はWEB関連です。社内ではプロジェクトやクライアントごとに細分化したチーム体制を作り、マーケティング、システム設計などのベースとなる部分を綿密に積み重ねていきながら、訴求力のある「情報デザイン」を構築するための万全の体制を築いています。

五十樓 実際に調べてみると、会社ドメインのco.jpを取得しているのは100数十万件あっても、まだその半分以上が企業として自社のサイトを持っていない。企業としてWEBを

活用しているところは、明らかにまだ少数派なんですよ。WEBサイトがあったとしても会社案内程度のところも多く、どのようにして会社のWEBサイトを戦略的ツールとして活用していったらいいか分からない、という会社のほうがまだまだ圧倒的に多いと思いますね。

野村 今、XMLを使ったCMSで「生産革命」 という商品をβ版にてリリースしています。従 来のCMSパッケージとは大きく異なり、コンサ ルティングを行いながら情報資産を最適な形 に構築し、ウェブサイトを中心とした多くの媒体に対しても同じ情報をできる限り短期間で安価にリリースできるように設計したものです。これは弊社とコンサルティング契約をしたクライアント様のみにご提供させていただくものですが、今までにない画期的な商品と、自負しています。

五十棲 WEBは少しばかり勉強をすればあ る意味簡単に作ることができます。ところがサ イトを作っただけではそう簡単にはお客様は きてくれません。だから例えば昔ながらの小 売店がインターネットでビジネスを拡大してい きたい、と思ったときそのハードルは実は簡単 なようでとても難しいものになります。誰でも簡 単にWEB上で店は開けるけど、結局収益化 していきビジネスとして軌道に乗せるとなると 簡単じゃない。よく書店には「ブログで100万 円もうけました」というような本がたくさん出版 されていますが、これは氷山の一角。実際に WEBを活用しながらビジネスをきちんとした 軌道に乗せて収益化していくことには、眼に 見えない戦略も必要になってきます。ビジネス そのものの設計力が必要で、より高度なもの が求められると思いますね。



involved in going about this. Developing a successful online presence, however, is actually extremely difficult. Although I still think that anyone is capable of establishing their own online retail presence, it is relatively difficult to get the ball rolling in uploading your site and actually turning this into a profitable arm of a company's business. When I'm in a book store I often see titles such as "How to Make a Million Through your Blog," and this is just the tip of the iceberg as there are many other examples of such publications. Effecting a smooth progression from creating and uploading a website and turning this into a profitable extension of a business requires a strategy that may not be visible to the naked eye. Business itself requires an ability and strength in design, and I think that establishing an online presence requires something more advanced than this.

Need for Companies to Develop a "Design-based Strategy"

Nomura: As part of our company's efforts to extend our design-specific activities, we approach the internet as being one element of media in carrying out website development for other companies. This means having to constantly consider to what extent or ratio the web is involved in this idea of "design." For most companies to date, design has been aconcept that has never really gone beyond the idea of favorably conveying a product's image cost. In today's business environment, however, design is no longer limited to the image and appeal of the product itself, but also encompasses the company's overall philosophyand strategy. When viewed from this perspective of having to comprehensively convey a company's products and underlying philosophy, then we believe the construction of an

appealing and effective website is essential. In terms of costeffectiveness, however, the majority of corporate websites are neither visually or functionally appealing and this unfortunately constitutes a waste of resources whena superior product could be used.

Isozumi: I think that the future will involve not just simply providing an approach to customers that is all-encompassing and generalized, but one that is more focused on specific customer segments and that uses a relevant sense of design. As this involves adopting the idea of "we are selling this product aimed at this section of the population and wish to use these applications," then the meaning of each product has to be refined for each customer group. This therefore requires a website to not only look good, but also to have a well thought out design. This is becoming an extremely important factor in corporate presentation in my opinion.

Nomura: Design is ultimately about preparing the ideal layout. When thinking about "design," although there is a tendency to have a strong feeling of sensitivity overwhelm other senses, this alone is not enough to truly move people, is it? It is often said that "the left half of the brain plans the design while the right side comes up with the finishing touches to the design." Websites that have been developed bydesigners who have been thoroughly schooled in such thought are usually given positive reviews and I think these kinds of sites have a long-lasting life-span and are subject to extensive use.

Isozumi: I would agree with you there. A good example to use in looking at this is to compare Google and Yahoo's search engines. It isclear that the design principles for both of these are quite different. People who need information quickly and require a swift response to their search, such as people engaged in business, would use Google,

これからの企業に 「デザイン戦略」の必要性

野村 我々の会社はデザインに特化して活 動を展開しているため、WEBをメディアの一 部として捉え数々のサイトを手掛けています。 「デザイン」という切り口の中でWEBというの がどのくらいの比重を占めているのかを常に 考えていますが、今までは企業にとってのデ ザインとは、「商品のイメージや価値をより良く 伝えるものに過ぎませんでした。しかし今では、 商品単体のイメージアピールだけではなく、企 業理念や戦略などをしっかりと訴えることがで きるようなデザインという側面からも、WEBサ 仆を構築していく必要があると考えています。 ただ費用対効果としてみていくとそこまで達 成できているデザインというのは残念ながらま だまだ少ない、と思うことが正直多いですね。 五十棲 これからは万人向けというよりは、タ ーゲットに向けてある程度セグメントされたデ ザイン性というのが求められてくると思います。 「我々はこういう人たちに向けてこういう活用 をしてほしいからこの商品を売っています」と いうメッセージを伝えるわけですから、客層を ある意味絞り込んでいくことになるわけです。

そういう時に、ただきれい にデザインされているとい うだけではなく、「考えられ たデザイン」というのが非 常に重要なファクターにな ってくると思うのです。

野村 結局デザインとは、 やはり設計がきちんとある

べきなんです。「デザイン」というと感性ばかりが先行しているイメージが強いのですが、それだけでは人の心に届かないこともあるでしょう。よく言うのは「左脳でデザインを設計して右脳で最後のデザインを仕上げていく」。このようなことをしっかりと訓練されたデザイナーが作ったWEBサイトというのは、きちんと評価され寿命も長いと思います。

五十樓 そうですね、例えば検索エンジンの グーグルとヤフーを比較するのがわかりやす いと思います。明らかにデザインの方向性が 違いますよね。ユーザーがスピディーに目的 の情報を探したいグーグルはビジネスで活用 する人、デパート型のヤフーは楽しく遊びた い人、というように目的別にデザインがはっきり すみ分けされています。

野村 企業経営者というのは、まだまだ「デ

ザイン戦略」というところまでは行きついていないのが実情だと思います。デザイン戦略というものがどのようなものかを理解されていないのではないでしょうか。そのために我々は企業経営者に向けてセミナーを開催しています。残念ながら現在は「良い商品を売っていくことが企業の成長につながっていく」ということだけで語れる時代でもありません。利益を生みだすデザインこそが企業の経営基軸となる時代。デザイン戦略を取り入れることでユーザーから愛される理由を作り出していく……。これこそが、これからの新しい会社のあり方だと思っています。多くの企業経営者に、我々が開催しているセミナーで「成長をもたらすデザインの可能性」に気づいていただきたい

のです。利益を生むデザインこそが重要で、「デ

ザインで日本を変えよう」という意識を持って



while people who wish to use Yahoo's department store-style of online searching tend to people with more time to have fun online. This demonstrates that we can detect clear differences in design aimed at two differing groups of users who have two different sets of intentionsfor using such sites.

Nomura: I still think the current reality of the business world in Japan is that most companies' management is yet to get onboard with the concept of developing a "design strategy." This is undoubtedly connected to this class of people not fully understanding what this idea of design strategy actually is. In an attempt to overcome this situation our company holds regular information seminars on this subject that are aimed at management-level employees. We are now in an age, unfortunately, in which simply thinking that "selling quality products will lead to corporate growth" on its own is no longer sufficient. This is now an age in which a core element of management for many companies lies in developing a design that can actually produce profits, and adopting a new design strategy can instill users with a desire for using that company'sproducts. I think that this idea in itself will be how companies come to approach doing business in the future. We hope that the majority of management personnel attending our seminars come away from these with an understanding of the potential design has for producing growth. Although design is important in its own right in simply being able to produce income, our company actually fosters and develops new brand value that has a sense of "changing Japan through design."

Isozumi: When making a choice about where to go to out to eat, and this is perhaps more noticeable among females, many people base their choices on design factors such as the location's appearance or

atmosphere. I would say that this plays an important part in any decision. This idea can also be applied to students who are in the middle of looking for a new job. Although factors such as stability and agood salary are important considerations, what also attracts potential recruits is a company's office design or maintaining a stylish website, and these design-related factors are becoming of increasing importance. These considerations can also be applied to situations in which a company looks to use the internet as part of their business operations and I would have to say that the basic start-line for initiating any such activity is to have a well thought out design.

Nomura: I imagine that many people who actually read this book will be involved in web design themselves. Even when it comes to web design companies. I think that we have reached a point where it is necessary to reevaluate our approach in examining what the internet actually brings to companies. Our company's seminars start from the point of view of examining exactly what kind of role web design plays, as well as looking at issues from the perspective of information design. Although not limited to discussion and involvement of the web, we feel that there are a total of seven indispensable factors and their operation that are essential for developing a "design that sells." Our seminars examine these "7+1 strategies for management design," that look at what managers should do in approaching the issue of design and includes instruction on how to construct an equation for developing a "design that sells." These seminars provide management-level employees with an insight into how to deal with a design strategy that they probably had never imagined as being one of the key elements of management.



新たなブランド価値の創造、育成を行っています。

五十樓 何か美味しいものを食べに行こうと飲食店を選ぶ場合、特に女性にその傾向が強いかもしれませんが、外観とか店の雰囲気とか、やはりデザインで選ぶ、というところに大きな比重が置かれていると思います。また学生が就職活動で会社を選ぶときも、やりがいや安定性、給料がよいなども選ぶ基準になりますが、最近ではオフィスがかっこいいとか、WEBサイトがおしゃれだとか、そういうデザイン的な要素も年々高まってきています。WEBを使ってビジネスをしようとするときも同じようなことが言えて、考えられたデザインである、ということがまず最低限のスタートラインではな

いでしょうか。

野村 この本を読む 方にはWEB制作に携 わる方々も多いのでは ないかと思います。 WEB制作会社としても、 WEBという存在が企 業にとってどういうもの なのかということを、改 めて把握していく必要

があると思いますね。我々が今行っているセミナーでは、WEBデザインというのはどういう役割を持っているのか、そして情報デザインという切り口から見ていきましょう、というお話から始めさせていだたいています。WEBだけのことではないのですが、「売れるデザイン」を描くためには外せない7つの要素とその運営が必要になってきます。我々のセミナーでは「経営のためのデザイン戦略7+1」というメニューの中に、経営者がデザインにどのように取り組んだら「売れるデザイン」の方程式を構築できるかを盛り込んでいます。経営の基軸に今まではおそらく発想もなかったであろうデザイン戦略を取り入れていくことを提案しているのです。

WEBで企業が生まれ変わる、 そのキーとなるものは?

野村 ところで最近はブログなども流行っていて企業などでもひとつの戦略として積極的に採り入れているところが多いようですが、五十棲さんはこの現象をどのように捉えていますか。

五十棲 僕は自分のサイトを2000年から立 ち上げています。ブログにせず初期の頃から 一部会員制のサイトにしており、あえて広がら ないようにしています。しかも最近になっても っとクローズドにしたんですよ。匿名性があり ながらネットワークを広げたい、と希望している ような方はそれはそれでいいと思うのですが、 個人のサイトでも今後は会員制であったり、 個人情報をきちんとはっきり提示してから入っ てきてくれるなどのニーズも高まると思うのです。 それによってページビューが下がったとしても、 こちらの価値観を理解してくださる方だけが、 繰り返し繰り返し訪れてきてくれるような形の 広がり方です。ローコストで情報が広がって いくWEBの世界だからこそ、クローズドである ところに大きな価値が見いだせると思うのです。 野村 そのような中でコミュニティが完成され

The Key to Using the Web to Reinvent your Company

Nomura: With the increasing popularity of such online media as blogs, a number of companies have recently started to actively develop a single approach to their strategy. How do you perceive these developments?

Isozumi: My own site has been up and running since 2000. This doesn't contain a blog and parts of the site are restricted to membersonly access. I would therefore say it isn't really aimed at increasing its audience share. I have actually implemented even more restrictions recently. Although I think people who wish to expand their network while maintaining their anonymity should continue to do so, I can see personal sites in the future having to introduce membership systems with a growing requirement for users to provide a particular site with personal details in order to access information there. Although this will necessarily result in a reduced number of page views, this approach will encourage an increased number of repeat visits from users who identify with the concept of the site and are willing to provide their personal information in return for information from the site. I think that it is precisely due to the fact that information on the web can be acquired at a low cost that leads to the spread of such information, and this will mean it is precisely those sites that restrict access to their content that will continue to maintain high value.

Nomura: In looking at these developments, together with the growth of online communities, there is an increasing emphasis on word of mouth information. I think that if events continue as they are right now, with anyone being able to write whatever they want to under the protection of anonymity, then this may lead to the development of an unexpected

situation. In thinking about these developments in a serious manner then I would agree that there is a potential business chance out there. Isozumi: In my birthplace of Kyoto there are numerous traditional Japanese restaurants that have been in business for over 300 years and that continue to turn away first time customers. I think that having a web-based company that thought along the same lines would be no bad thing. Contrary to expectation, a company that is that little bit discriminatory may actually have a more successful business plan and long-term chance of success and would certainly be an interesting proposal. Rather than having every company develop in the same direction in following the trends of a particular period, I think that a company with its own unique identity and business plan would be a potential strength.

Nomura: Today's world is one in which losing your independence is something to be afraid of, isn't it? There are an increasing number of cases in which companies actually carry out their business through independent thinking in a manner that is at odds with conventional thinking. I think it is these kinds of company that are the more interesting and hold a tremendous amount of potential.

Isozumi: It is becoming more common for consulting companies to offer services that begin by providing a sub-site that is different from the actual main site. This kind of site, with a title that contains or is similar to the most popular searched keywords, is created independently from the particular company's main site. For example, when someone with printing requirements conducts an online search for where to order, this search will reveal the most relevant companies that match his requirements. Up to now, when consulting with the sales representatives of printing companies this would involve the first step

れば、その中での口コミ情報というのはとても 信憑性が高いでしょうね。誰でも好きなことを 匿名性でいつでも書き込めるような形を過ぎて、 もうしばらくすると五十棲さんがおっしゃるよう にこういう時代が案外くるのかもしれません。 そういう部分を真剣に考えていく中にもビジネ スチャンスはありそうですね。

五十樓 僕の出身地である京都には、今だに一見さんお断りで300年も続いているような料亭などが数多く存在しているんですよ。このような発想を持ったWEB会社があってもいいのではないかと僕は思うんですね。

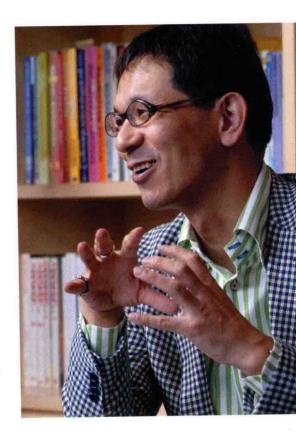
意外とそういう発想を持ったほうが長く存続するかもしれないし、あるいは面白い提案になるのかもしれません。時代を象徴するような流れに向かってみんなが同じ方向を向いているよりは、しっかりしたアイデンティティーを持っていることが強みになるともいえると思います。 野村 今の時代は独自性を失っていくほうが実は怖いですよね。独自性を持って世の中とは逆をやる、というケースもありではないですかね。そういう会社のほうが面白くて多くの可能性を秘めていると思います。

五十棲 最近ではコンサルティングをさせて いただく企業の方に「本体サイトとは別にサ ブサイトを作りましょう」と提案するところから始めていく場合も少なくありません。最も検索されるようなキーワードと同じようなタイトルの付くサイトを、企業の自社サイトとは別に立ち上げるのです。例えば何らかの印刷物を頼みたいという人がどこに頼もうかと検索してきたときに、役に立つようなサイトにしておくんです。今までだと印刷会社の営業マンに相談をして「まずは見積もりを」という話になっていたと思うのです。でも我々が考えるサイトでは、「少なくともこれぐらいのことは知っておいたほうがいいですよ」というような印刷の知識も含めたアドバイスをまずはWEB上で行う仕組みをつくるわけです。

野村 検索エンジンによる検索結果で、自社サイトをできるだけ上位に表示させたいと、SEO業者に依頼する企業も少なくないと思いますが、そのあたりはどうですか。

五十樓 あえて、「SEOはやめなさい、お金の無駄使い」と一般とは違うことを言っています。SEO対策をしなくても、検索されるキーワードと同じようなタイトルの付くサイトを立ち上げておくことで、最もヒットするキーワードからリーチしてくるんですよ。それだけでもユニークユーザーを確保するという段階はある程度

解決すると思います。ビジネスの構造や在り 方を今の時代に合ったものに作り替えていく。 WEBはその起爆剤になるともいえるでしょうね。 野村 多くの中から商品や会社、サービスな



being drawing up an estimate. In the sites that I'm talking about, however, these involve creating an online framework that includes various advice for customers and assumes of the customer a certain level of knowledge regarding printing.

Nomura: Based on the search engine used and the subsequent search results, companies constantly look to provide the highest possible ranking for their own site and many companies use search engine optimization (SEO) operators to improve their results. What do you think of this approach?

Isozumi: I would say I'm going slightly against the mainstream in saying that SEOs are actually not worth the money they cost. Even without resorting to an SEO measures, by developing a sub-site to your main site with a similar title to popular keywords, this will allow your site to gain a large number of hits and expand your site's reach. This should be sufficient to retain your site's unique users. The nature and make-up of a business framework nowadays is such that we have to progress in adapting to changes. It could even be said that the internet can act as the driving force underlying this, couldn't it?

Nomura: When having to make a choice from a wide selection of products, companies, and services, it makes sense to continue to use a variety of mechanisms in making your decision. As much as possible, the information for making this decision should be made available on the web and I think that this is one of the principal roles that the web can play. This means that you no longer have to be uncomfortable in front of store staff, but can take the time to choose your desired product online. Due to such changes, however, this will unfortunately result in the disappearance of a number of industries. Conversely, however, I think that there are several situations in which the web can

also play a role in coming to the aid of such industries.

Isozumi: The majority of recent cases of successful consulting that have used the web have been in the printing and construction industries. Construction companies working in local areas, in particular, have been subject to a steep decline in the amount of public works projects being commissioned, and have been forced to shift the focal point of their business. Based on our advice, such constructors?even when involved in renovation work?have come up with a number of new opportunities through the use of online resources. In examining the meaning of the web as a new business technique then I would also suggest that the printing industry has witnessed a significant leap forward in its operations due to use of the internet. Companies that use the web to receive data have actually increased by 150 to 200% over the previous year's figures. The conventional structure of printing companies that had been carrying out business as usual has been radically transformed through the adoption of the internet. Using the web has shined a light on the differences required in what it takes to survive in a competitive business world and this is just one example of such success.

どを選ぶとき、色々な仕組みを使っていきなが ら求めるべきところへと導いてあげられる、そ の判断材料をできる限りWEBという土壌に 乗せていく、というのがWEBの役割でもある と思います。店員にぐっと気持ちを押されるの ではなく、WEBでは自分の判断でモノを選ん でいく。しかし時代の移り変わりにより、残念 ながら消えゆく業種も多い。それを救ってくれ るのがWEB、という場合も少なくないですよね。 五十棲 最近WEBを使ったコンサルティン グで成功した事例の多くが、印刷業や建築 業です。特に地方の建築業者は公共事業が 激減していますから、ビジネスの矛先を転換 させていくことを余儀なくされています。我々 のアドバイスにより建築業者はリフォーム業者 としても、WEBを使って新たな活路を見出し ています。WEBを使った新たなビジネス手法 という意味では、印刷会社も大きく飛躍してい る業種だと思います。実際にWEBでデータ 入稿を行っている会社は、昨年対比で150% ~200%アップしています。旧態依然としてい た印刷会社の仕組み自体がWEBという存 在によって全く変わってしまった。WEBを使う ことで生き残りの明暗を分ける、というひとつ の成功例だと思います。

ロジカルなインターネットの 世界だからこそ大切なこと

五十樓 先ほども言ったようにサイトを作った からといってすぐに仕事が舞い込んでくると いうほどイージーではないのがWEBの世界。 きちんと作ろうとするととても高度な設計能力 が必要になってくるわけです。非常にロジカ ルな世界に入っていくわけですね。世界中で 話題になるようなサイトは、やはり非常に能力 の高い方が設計しています。左脳が優れた 人が多いと思いますよ。ところが日本という社 会を考えたときは、そのすべてが必ずしも当 てはまらないと思うのです。こんなにも進化し た現代でもわびさびの世界があったり、欧米 の人が信じられないような流通の仕組みもま だまだ存在しています。そのように考えていく と、人の感性からテクノロジーを有効に活用し ていくようなハイタッチなものが、とても必要だ と思うのです。日本で今、ブログが受けている、 というのもそういう部分が大きいのではないか と思っています。

野村 日本には四季があり立春、秋分などの 二十四節気もあります。それに日本だけには 限りませんが、誕生日や記念日などのイベント もありますよね。そのような時にどのようなこと をすれば感情が動いていくか、というところま でにデザインからアプローチしていきたいと思 っています。

五十棲 左脳的なのかデジタル的なのか、 情報が高度化していくのと同時に、人間らし さなども高めていく必要があると思うのです。 企業としてのアイデンティティーというのは、ど ちらかというとハイタッチな部分であったり、右 脳的な世界であったり、人間らしさの部分の ほうが伝えやすいんじゃないかなと思います。 野村 現代ではモノを購入するとき、「感情」 抜きでは語れないと思います。「必要」という 意識と「買う」という行動の間には「感情」が 入り込んでいて、現在ではその感情がモノ選 びの基準になっていることも少なくありません。 今までは「必要なモノだけを買っていた」かも しれませんが、最近では「必要でなくてもコレ は欲しい」という人々が増えています。そこに 必要なのが「売れるデザイン」ということだと 思います。携帯電話や携帯音楽プレーヤー などに関しても、人気が高い機種というのは、 機能はもちろんですが明らかにデザインでも 選ばれていますよね。

五十棲 デザインやブランドなどで独自性を

Important Points Required in the World of Logical Internet

Isozumi: As I mentioned earlier, the current environment surrounding companies use of the internet is one in which people think that simply creating a site will immediately result in new work pouring in. Creating a well-developed website requires an advanced level of design ability. This is because this kind of world is extremely logical. Popular websites that have become the subject of discussion throughout the world have usually been designed by someone with an extremely capable talent for design. I think that these types of people tend to have an outstanding degree of left-sided thinking. When thinking about this in terms of Japanese society, I don't think that everything I mentioned applies in this case. Even in the truly advanced state that we find ourselves in, set against this continued sense of imperfect development, Japan still retains a distribution framework that many westerners can simply not believe. If we think about things in this way, then what I think is essential is the adoption of high touch items that make effective use of technology from peoples' feelings. Japan has recently seen increasing interest in blogging, and this is the kind of area that I think will be of increasing importance in the future.

Nomura: Japan has a clearly defined four seasons, with 24 distinct seasonal days such as the first day of spring or autumn. Although this isn't necessarily limited to Japan, there are also such events as birthdays and anniversaries, aren't there? We are constantly thinking about what to do to inspire the kind of emotions as are exhibited on these days, and our company wishes to adopt a design-based approach to these areas.

Isozumi: Whether controlled by the left side of the brain or in a digital

manner, as information is becoming increasingly advanced, it is also becoming necessary for humanity to continue to advance. The idea of acorporate identity is rooted in the area of high touch and is part of a world that is controlled by the right side of peoples' brains, and I think that it is easier to transmit the idea of our humanity under these circumstances.

Nomura: When we buy something in this current age, I think that we can't mention this without removing the idea of "emotion." This sense of emotion can be place in between the awareness of "necessity" and theaction of "buying." Currently, such emotion plays a significant and fundamental part in peoples' attitudes to buying a new product. Until recently people may have thought along the lines of only buying something only when it was absolutely necessary, but recently the number of people who buy something based on the idea of "I don't need this but I want it," have been gradually increasing. What I think is required in this sense is a "design that sells." When thinking about cell phones or MP3 players, we can see that the models that become popular are chosen more for their design than for their actual features.

Isozumi: I think we have arrived at an age in which we can transmit our own differentiated identity and create a sense of independence precisely through design and brand names.

Nomura: In order to implement an approach that is based on emotion, our company thinks that it is best to develop a design that actually controls the level of emotion involved. Set against this background, we have recently started to offer our own consulting service, and in response to situations with a lot of uncertain concepts, such as emotions, we are continuing to develop systemization within the company. I think that this is essential for companies to survive in this

打ち出し、差別化されたアイデンティティーを 発信できる時代になった、そういうことだと思 います。

野村 感情にアプローチしていくためには、感情を抑えたデザインというのも必要になってくると考えています。そのような中で我々は今、デザインのコンサルティングを始めたところですが、「感情」という不確定要素の多いところに対してしっかりと体系化したものを構築していくことが、自分の満足度でモノを選ぶ時代の中で企業が生き残っていくためには必要だと思います。それはもちろん、WEBサイトにおいても同じことがいえると思います。

五十樓 企業側としてもハイタッチな要素に 対してきちんと提案してくれるような会社と付 き合っていくことが必要だと思いますね。特に 中小企業に関しては、マスマーケットに対して 商売していく時代ではないですから、より差別化されたメッセージ性とかオンリーワン性などをきちんと伝えていく必要があります。だからそういう意味で、デザインというのは非常に有効なツールで、そこには綿密な戦略があるべきなんです。

野村 こういう時代に大切なことは実は「無駄」ということだったりすると思います。企業にとってデザインに基軸を置くということは、費用対効果などを考えた場合、一時的に無駄と感じる場面もあるかもしれません。しかし無駄を作っていくことによって新しい仕事が生まれることは少なくない。先ほどもかっこいいオフィスは新卒に人気が高いという話がありましたが、社員の感情を揺り動かすようなオフィス作りが時には必要で、そこからは新しいビジネス、そして我々でいえば新しいデザインも生み出さ

れていくと思うのです。結局、機能だけですべてが縁取られたものには、いずれ飽きがきてしまうのかもしれません。我々が今はじめたデザインコンサルティングという考え方では、新たなブランドイメージを確立していくための最良の方法を考察し、ブランドを育てていくことが最終目標です。そのために「売れるデザイン」を創造していく。デザインもまた、時代によってその役割を変化させていくべきものなんだと思います。



business world in which consumers choose products based on their own degree of personal satisfaction. This is of course the same idea that can be applied when it comes to developing a website.

Isozumi: I think that from the corporate viewpoint, a company really needs to be involved with a design company that can provide them with a truly high touch approach. This is especially important for small and medium businesses as this is no longer an era of developing sales and products for the mass market, and they need to ensure that they can produce and convey a distinct message that stresses the unique nature of their products. Set against this background, therefore, I think that design is an extremely effective tool and companies should have an in-depth strategy for developing this.

Nomura: What is also important for me in this day and age is the idea of "waste." For some companies, placing the idea of design as the cornerstone of their operations may result in some people considering this awaste of money when seen from the perspective of cost

effectiveness. But I think it is precisely this creation of wastefulness in the past that has actually created a number of opportunities for new business. We just talked about how a cool-looking office space can appeal to potentialnew recruits, and I think that we sometimes need to create an office environment that can appeal to employees' emotions. This in turn creates the potential to develop new business and for employees to come up withnew and exciting design. In reality, only relying on technical functions and features to develop business will ultimately result in customers tiring of such an approach. Our company has only just started design consulting and this way of thinking, which involves considering the best technique for establishing a new brand image with our ultimate goal being the ability to foster a new brand. We are therefore creating a "design that sells" in order to develop this. I also think that design is a concept whose role should change depending on the period in order to meet the conditions and expectationsinherent in that era.

P	206	アークウェブ	9	254	タスクラボ&ステージ
	278 62·64	アースフィアアイ・エム・ジェイ		122	タム タンデムワープ社
	272	アイアクト		120	
	248	アイテック阪神 アクアリング	ッ	140	月と六ペンス
	218 106	アジャスト	テ	40.42	ディー・ディー・エフ
	220	アズーロ		130	ディーオーイー
	158 24·26	アットあとらす二十一		256 28·30·32	デイズヌーヴェル ティファナ・ドットコム
	236	アナログエンジン		190	ティラノ
	182	アビリティーカンパニー アブー		200 112	デジクロデフィデ
	132	アベンティ		258	デライト
				270	デルタエージェント
1	98	イー・バード イー・フュージョン	h	148	東京ドアーズ
	162	イーシービービー	-		
	102	イクリプス イサック	ネ	234 52·54·56	ネットプロ ネットワールド
	160	イメージサイエンス		32 34 30	471-7 M
	96	インターキャスト	1	168	14
	244	インフォメーションメディアデザイン インフォネット	1	126	バーチャルコミュニケーションズ
	48.50	インプレッション	**	128	バリュークリエイト
	228	ヴィッシュ	-	108	ビー・ネイキッド
9	180	ウェブ・ワークス	_	166	ピーエスシー
	186	ウェブマックス		156	ビーンズ・クリエイティヴ・ディレクションズ ビット
	34 · 36 · 38	ウサくま		260	EVE
I	178	エヌシーエステクノロジー	フ	204	ファイアープラネット
	214 176	エフアイシーシー エフワンインタラクティブコンテンツ		230	フィールド ブース
	74.76	エレファント・コミュニケーションズ		262	フェイバー
	216	エンタクルグラフィックス		264	フォーデジット フォト・ウェーブ
*	154	オーク		78 80	フライング・ハイ・ワークス
.,	250	オーパス		124	プラスデザインカンパニー
ħ	150	垣内敬造事務所		118	ブラン フリーランス
,,,	152	カラーズ		232	ブリッジコーポレーション
	276	カラーパワーズデザイン		210	フルサイズイメージ プロキシー
#	170	キティホーク		202	プロフェッサ
				86.88	フロムナインクリエイツ
2	184	クーシー クォードムーン	_	224	ヘルツ
	30 32				
	252 138	コア・アド・インターナショナル コラボ	₹	82·84 116	マザー マック グラフィックアーツ
	66.68	コンテンツ		110	(92 9 9 9 9 9 9 9 9
		11 / 1/ 1 1/° - /	Ξ	266	ミームクリエイティブ
ש	268 70·72	サイバーシーズジャパン サンスイ	×	20.22	メタフェイズ
	134	サンライト		144	メディアフェイス
=,	44-46	シー・ディー・アイ		274	モン・クリエイティブ
-	212	ジゴワット			
	194	ジャパンデザインネット		192	ユナイティア
ス	16.18	スタイルメント	U	196	リアルインデックス
	136	スタジオーイー・スペース		172	ルート・シー
	146	スタジオ ホット スパイス スナップ	II.	172 174	ループ
	58 60	スパイスワークス			
	164	スパイス・グラフィックス スフィーダ	ν	94	レインボー・ジャパン
	104	227	0	198	ロックオン
t	142	セラク	_	242	ワコー
y	114	ソニックジャム	,	272	7-1